



# 第114回日本内科学会講演会

超世代の内科学 —GeneralityとSpecialtyの先へ—

*Specialty*

*Generality*

特別シンポジウム

「理想の内科医像」

# 「超高齢社会で果たすべき日本内科学会の役割と責務」 (宣言)

日本内科学会は進展する超高齢社会の医療を支えるため、ひとりひとりの生活の質に配慮し、全身を診る、臓器横断的な診断治療を行える内科医の育成に努めます。

2017年3月30日

<http://www.naika.or.jp/info/20170330/>

# 「内科医」の今後のあり方に関する アンケート結果

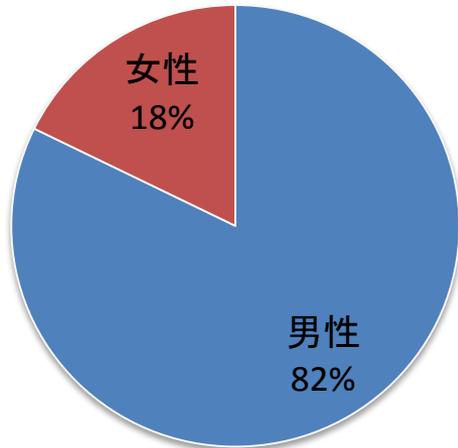
日本内科学会専門医部会

# 「内科医」の今後のあり方に関するアンケート

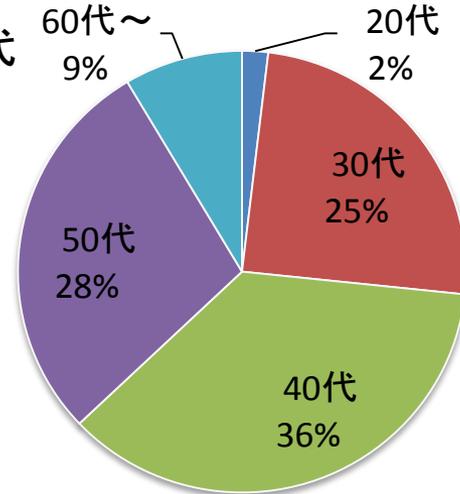
- 日本内科学会にメールアドレスを登録されている会員の中から10,000名を抽出し、Webアンケートを実施した。
- 対象が一定の地域に偏らないよう、会員構成を元に抽出した。
- アンケート実施期間：2016年12月26日（月）～2017年1月16日（月）
- 男性1,664名，女性359名，合計2,023名（学会員の1.9%）から回答を得た。（日本内科学会会員数の総数は2016年12月末で109,563名）

# 回答者のプロフィール

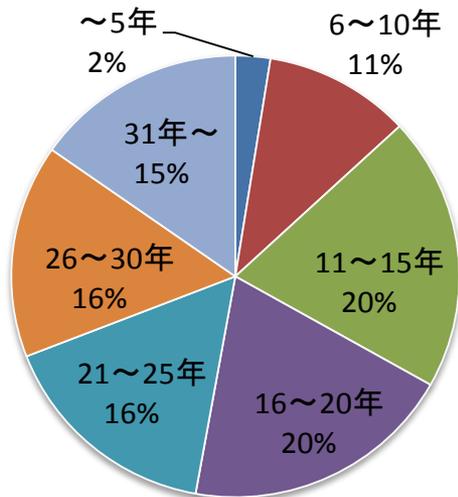
性別



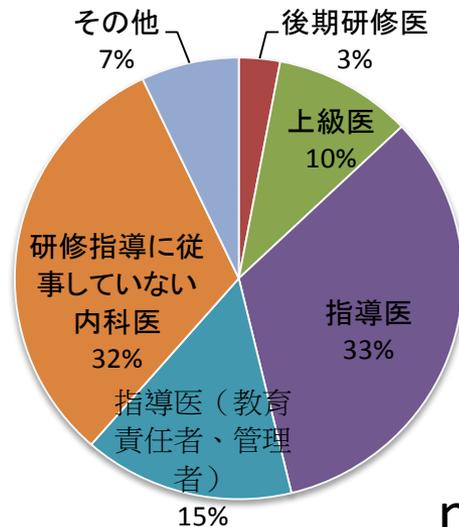
年代



医師免許取得後  
年数



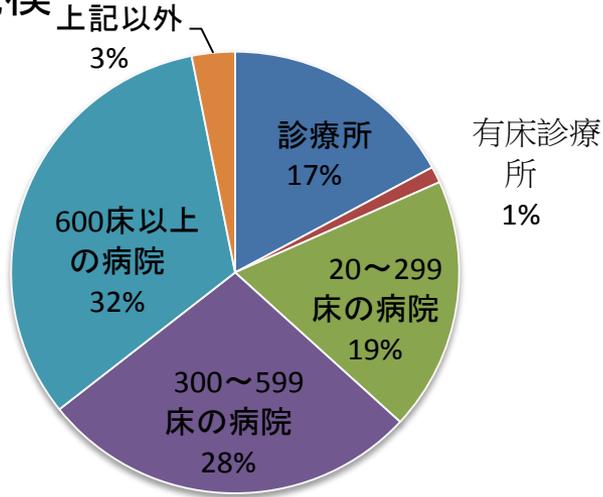
立場



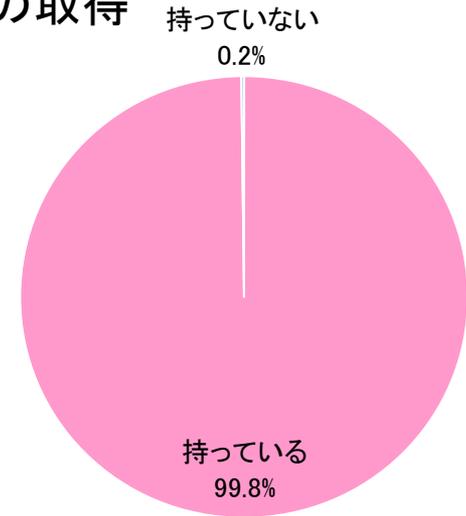
n=2,023

# 回答者のプロフィール

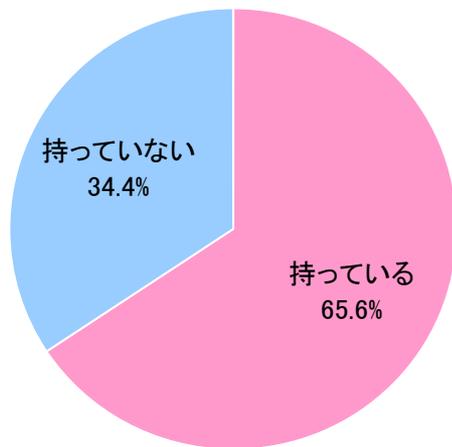
## 所属施設規模



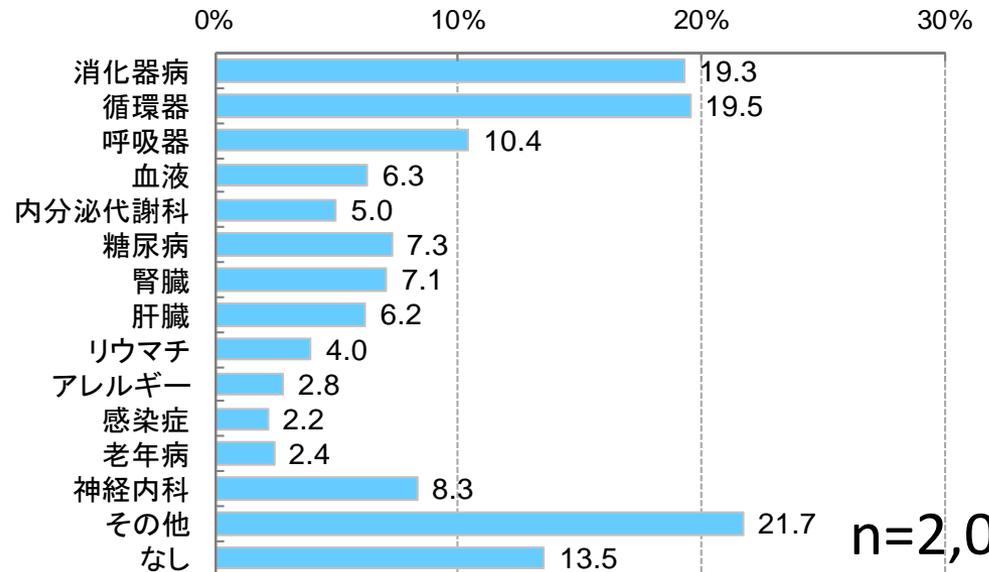
## 認定内科医の取得



## 総合内科専門医の取得



## 取得している専門医資格(複数回答)



n=2,023

日本内科学会は「より良い内科医 (generalist)」という概念を謳っています。このことに関連して以下の質問にお答えください。

質問11: 臓器横断的な診療姿勢は必要と思いますか。

- ① そう思う
- ② どちらかといえばそう思う
- ③ どちらかといえばそう思わない
- ④ 思わない

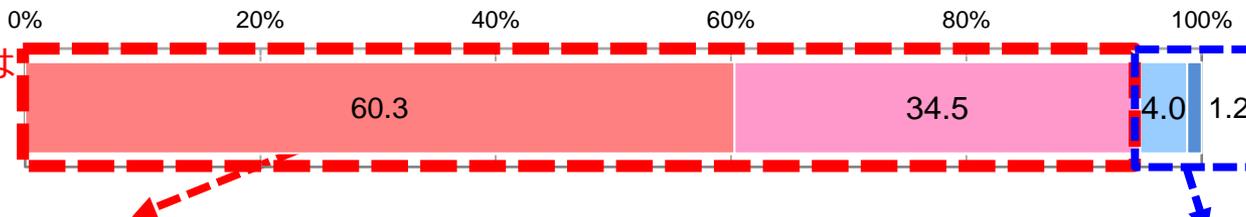
# 臓器横断的な診療姿勢の必要性について

- 大半の医師が臓器横断的な診療姿勢は必要と考えている
- 必要と思う理由は「内科医として当然である」のほか「高齢化が進むため当然である」が多かった
- 必要でない理由は「臓器別専門医で診療は充分である」が多かった

## 臓器横断的な診療姿勢は必要か

※回答対象: 全員(2,023名)

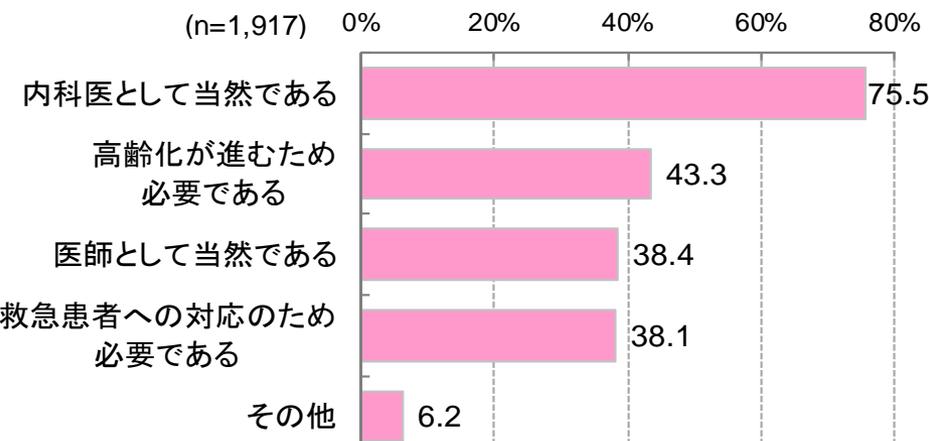
■ そう思う    ■ どちらかといえば そう思う    ■ どちらかといえば そう思わない    ■ そう思わない



臓器横断的な診療姿勢は必要だと思う計: 95%

## 必要な理由

※回答対象: 臓器横断的な診療姿勢は必要と回答した方(1,917名)

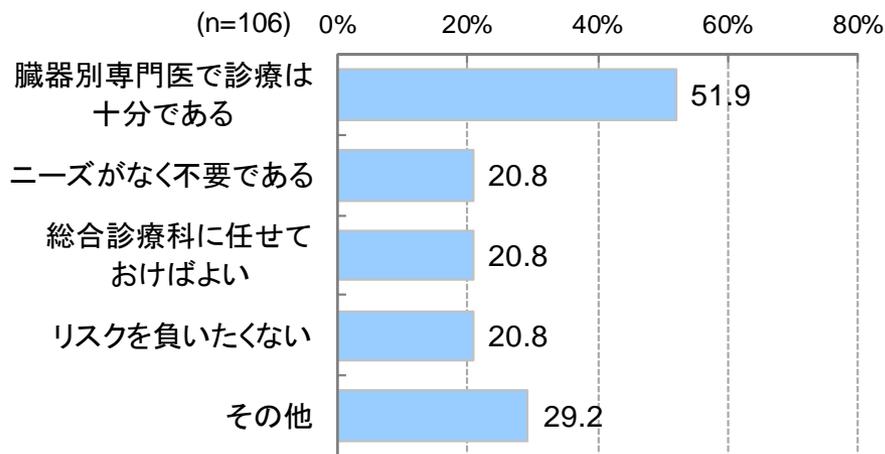


### その他の理由: 自由回答より

地方では各臓器の専門家を集めることができない。  
必要と思うが、専門以外の患者紹介が増え多忙になる。

## 必要ではない理由

※回答対象: 臓器横断的な診療姿勢は必要と思わないと回答した方(106名)



### その他の理由: 自由回答より

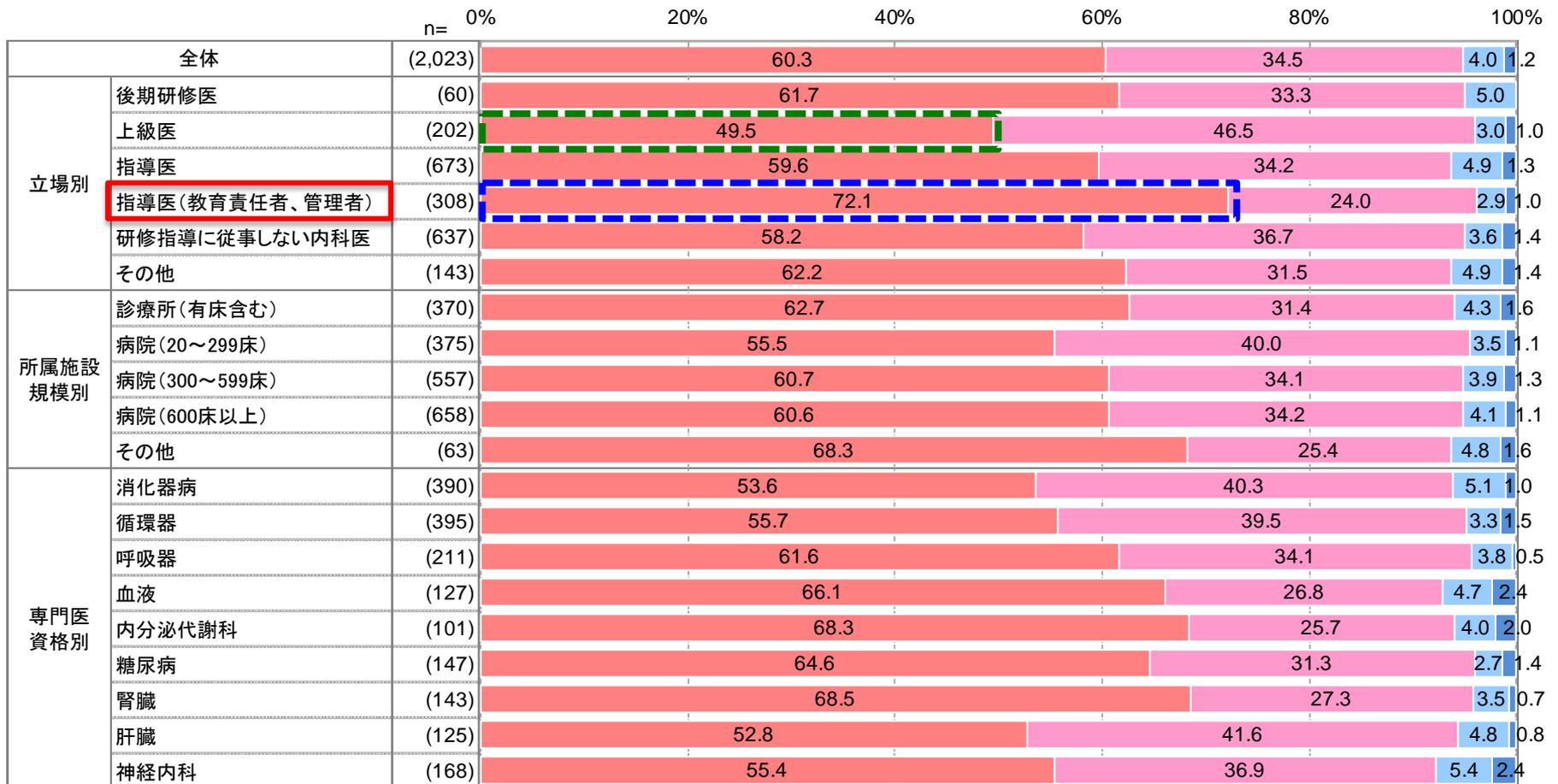
全ての分野の知識を深めるのは不可能。  
臓器別の研修がおろそかになり、診療の質の低下に繋がる。  
専門は「逃げ」、総合診療は「甘え」である。

# 臓器横断的な診療姿勢の必要性について

■ 指導医(教育責任者、管理者)では臓器横断的な診療姿勢は必要と考える医師の割合が高い

## 臓器横断的な診療姿勢は必要か

■ そう思う    ■ どちらかといえばそう思う    ■ どちらかといえばそう思わない    ■ そう思わない



質問14:あなたは臓器横断的な診療姿勢を有していると思いますか。

- ① そう思い、実践している
- ② そう思い、努めようとしている
- ③ そう思わない
- ④ よくわからない

問20:あなたの勤務されている施設では臓器横断的な診療姿勢を身につけるための取り組みをされておられますか。

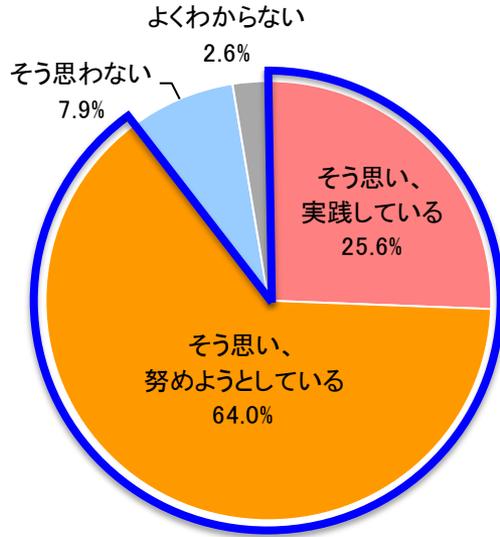
- ① している
- ② していない

# 臓器横断的な診療姿勢の意識・取り組み

- 9割の医師が臓器横断的な診療姿勢を「実践している」「努めようとしている」と回答した
- 臓器横断的な治療姿勢のある医師が周囲にいる割合は8割に近い。施設が臓器横断的な診療姿勢への取り組みをしている割合は全体の半数

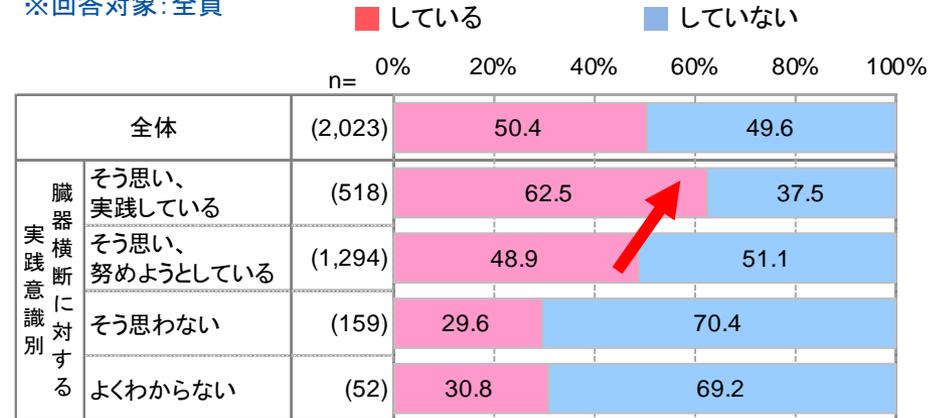
## 臓器横断的な診療姿勢を有しているか

※回答対象: 全員 (2,023名)



## 勤務施設で臓器横断的な診療姿勢への取り組みをしているか

※回答対象: 全員



「臓器横断的な診療姿勢への取り組み内容」: 自由回答より

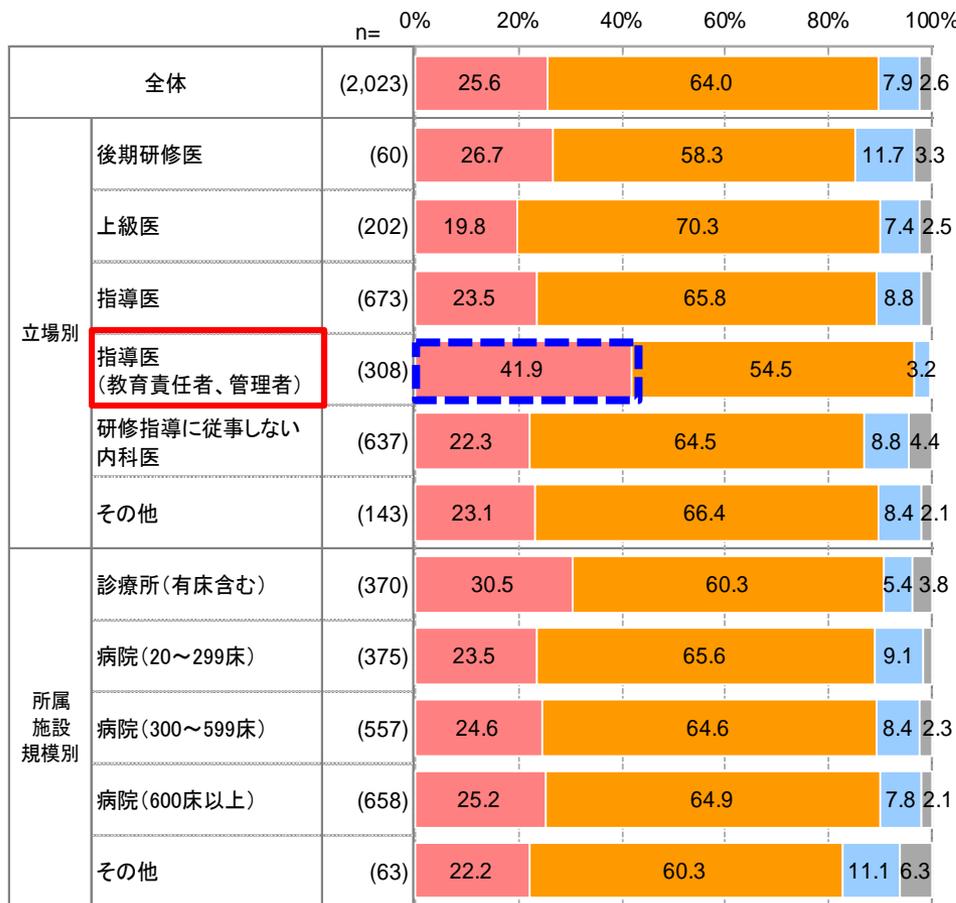
- ・カンファレンス実施
- ・講演会、セミナーへの参加
- ・ローテーション研修
- ・総合診療科の設置とそこでの研修
- ・救急外来担当、救急患者を診療

# 臓器横断的な診療姿勢

■ 指導医(教育責任者・管理者)では臓器横断的な診療姿勢の取り組みについて「そう思い、実践している」回答率が高い

臓器横断的な診療姿勢を有しているか

■ そう思い、実践している    ■ そう思い、努めている    ■ そう思わない    ■ よく分からない



※2.0%未満スコア非表示

質問22:現在の総合内科専門医についてお尋ねします。その**医師像**を踏まえてどのように思いますか。

- ① 総合内科専門医の目指す医師像について理解できる。
- ② 総合内科専門医の目指す医師像は理解できるが、取得が困難と思われる。

総合内科専門医の目指す医師像は必要ないと思われる。

よくわからない

総合内科専門医の医師像(抜粋)

- 1. 高レベルな横断的能力を有した一般・総合内科の専門医・指導医
- 2. 卒前教育, 研修, 生涯教育の担い手としての一般内科の専門医・指導医
- 3. 臨床医学の横断的領域として内科学を総合的に捉える研究者

内科学会HP: [http://www.naika.or.jp/nintei/seido/ishizo\\_top/ishizo\\_01/](http://www.naika.or.jp/nintei/seido/ishizo_top/ishizo_01/)

質問24:新内科専門医制度の開始に伴い、総合内科専門医の在り方に対する意見が内科学会に寄せられています。このことについてお考えをお聞かせください。

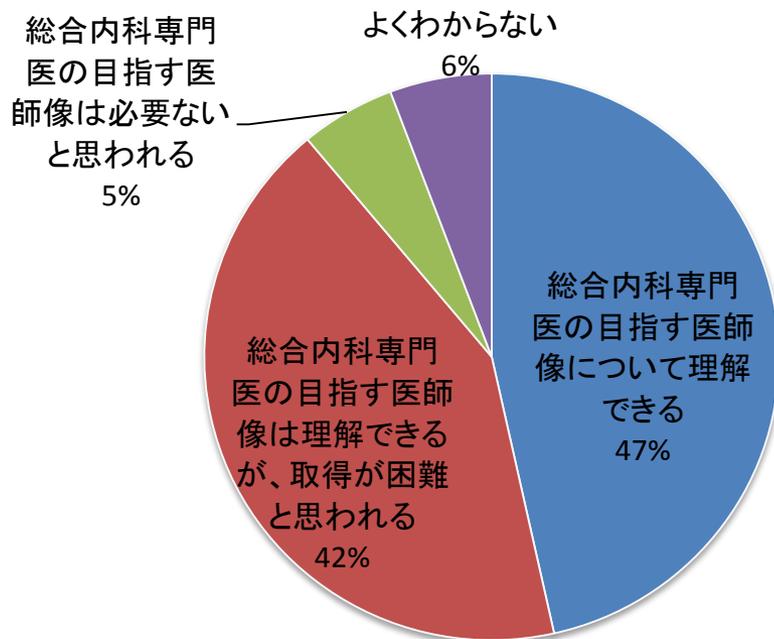
- ① 総合内科専門医を残したほうが良い。
- ② 総合内科専門医を残すことがあっても良いが、位置付けや住み分けをよく検討する必要がある。
- ③ 総合内科専門医を残す必要はない。
- ④ よくわからない。

# 総合内科専門医に関する意見

- 日本内科学会が提唱する『総合内科専門医の医師像』については、「理解できる」と「理解できるが取得が困難と思われる」がともに40%以上を占めた
- 総合内科専門医のあり方については、「総合内科専門医を残すことがあっても良いが、位置づけや住み分けをよく検討する必要がある」(全体49%)が「総合内科専門医を残したほうが良い」(33%)を上回った

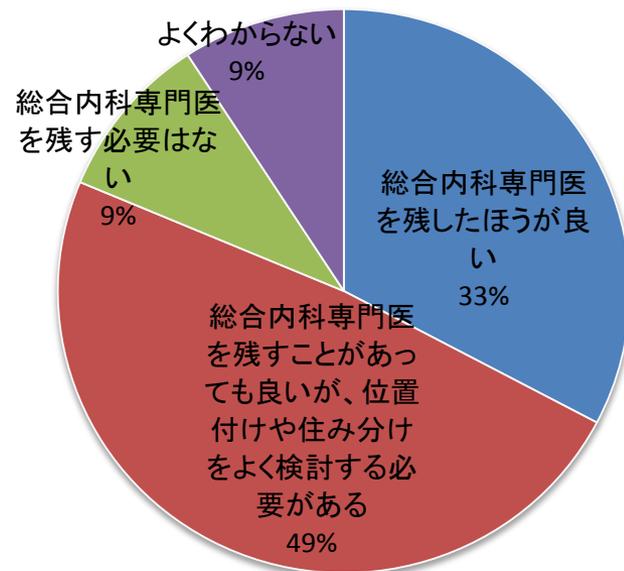
## 『総合内科専門医の医師像』への意識

※回答対象:全体(2,023名)



## 総合内科専門医に関する意見

※回答対象:全体(2,023名)



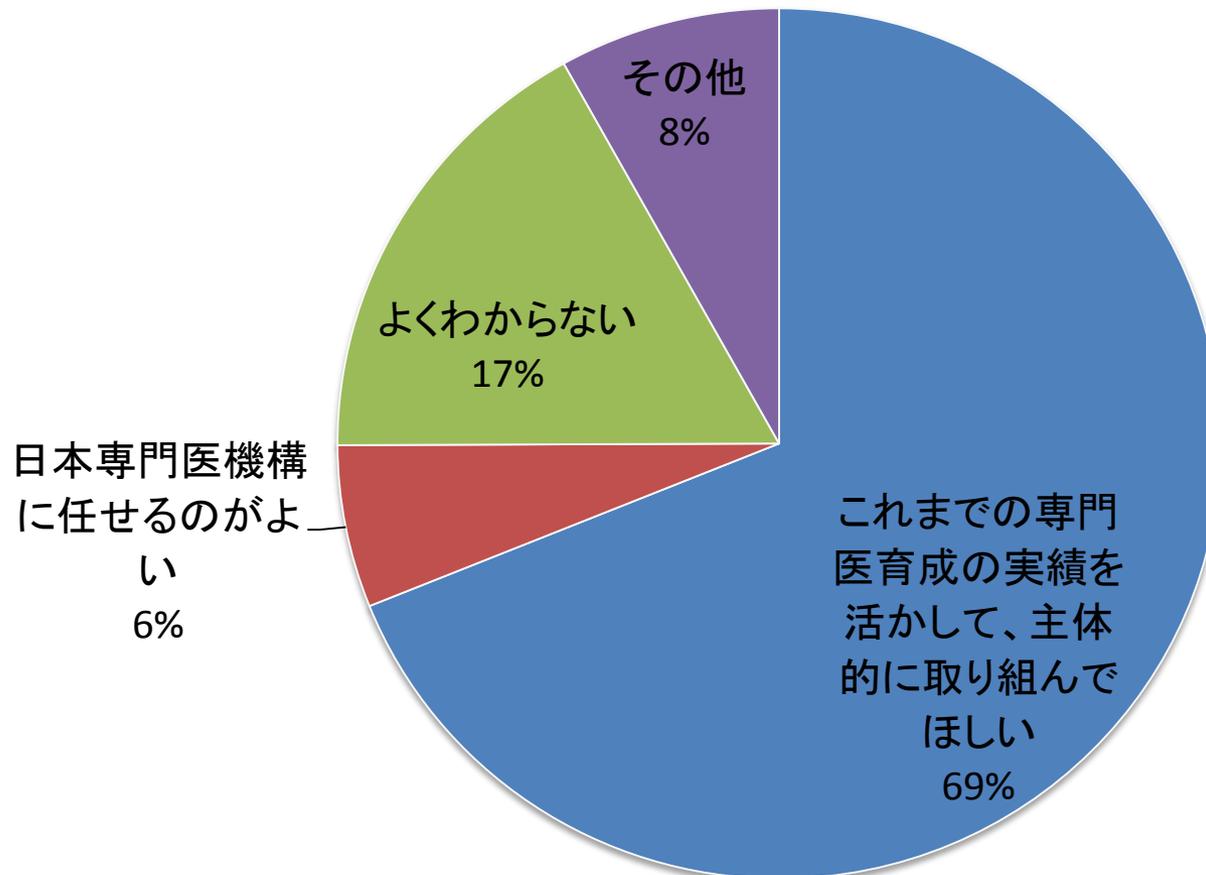
質問28: 全身を診る医師の育成(主に専門医の育成)に関して、日本内科学会にどのような活動を期待しますか。

- ① これまでの専門医育成の実績を活かして、主体的に取り組んでほしい
- ② 日本専門医機構に任せるのがよい
- ③ よくわからない
- ④ その他(具体的に: )

# 日本内科学会への期待度

- 日本内科学会に対し「これまでの専門医育成の実績を活かして、主体的に取り組んでほしい」が70%

全身を診る医師の育成(主に専門医の育成)に関して、日本内科学会にどのような活動を期待しますか



# 要約

- 多くの医師は臓器横断的な診療姿勢を必要と感じ、その診療姿勢を「実践している」「努めようとしている」と回答した。
- 臓器横断的な診療姿勢が必要でない理由として「臓器別専門医で診療は充分」「全ての分野の知識の習得は難しい」という意見があった。
- 「総合内科専門医」の位置づけや住み分けを検討する必要がある。
- 日本内科学会には「臓器横断的な診療姿勢の涵養に取り組んでほしい」という意見が多い。